

文教大学大学院言語文化研究科修士課程

2026年度3期入学試験問題

(2026年2月15日実施)

外国語科目（日本語）

問題用紙

受験番号	氏名

文教大学大学院言語文化研究科
2026 年度第 3 期入学試験問題
(2026 年 2 月 15 日実施)

外国語科目（日本語）問題用紙

* 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

設問 I. 漢字の読み方と書き方 <複数解答不可>

問 1. 次の下線部の読み方をひらがなで書きなさい。

1. 調査結果を精緻化する
2. 独自の理論を構築する
3. 先行研究の成果を吟味する
4. 偏りなく調査対象者を集める
5. インターネット上で参考文献を閲覧する
6. 膠着語と孤立語

問 2. 下線部のひらがなは漢字に、漢字はひらがなに直して書きなさい。

1. しゅうしょく活動で履歴書を作成した。
2. 駅前に置かれた自転車が撤去された。
3. 地球のおんだんかによって人類の未来が脅かされている。
4. 大学に新たな奨学金制度がもうけられた。
5. 運転手が注意を怠ったせいで、交通事故がはっせいした。
6. 防犯カメラによって窃盗犯がつかまった。

設問Ⅱ. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「作文」という日本語は、考えてみると、ずいぶんそっけない。文を作ること。「作る」という作業のイメージは、材料を集めて、道具を使って、うまく組み合わせ、つなぎ合わせていくという感じである。[①]、実際には、文章を書いていくと、目には見えないものが肌の表面から宙に流れ出し、また、言語の方も生き物のように動き出し、両者の体温が上がり、書き手は自我を忘れて一種の陶酔状態に入ることさえある。それは、「作る」という職人的な語感には似合わない出来事である。書くという行為に^{あきあき}相応しい、もっと魔的な単語はないか。＜中略＞

ちょっと古いが、日本語には、他に、「綴^{つづ}り方」という言葉もある。綴るというのは、言葉をつなげて文章を作っていくということなのだろうが、ちょっと織物のような感じもする。糸偏の「綴」という漢字は、糸が左側で支配していて、右には「又」という形がオーナメント^{注1)}風に繰り返されている。見た目が錦織^{注2)}のようなきれいな漢字だと思う。

現代日本語では、綴りと言え、書くといっても、狭い意味での書き方、つまり、スペリングしか(②指す)が、a. 「つづる」という語感の方が、わたしは「つくる」という語感よりも好きである。

1999 年にボストンのマサチューセッツ工科大学にライター・イン・レジデンス^{注3)}で呼ばれて4ヶ月滞在していた時、ドイツ語を習っている学生たちに、作文を何回か書いてもらった。学期中に3回書いてもらった長めの作文の他にも、週2回の授業の後で、その時間に思ったこと、次の時間の予習をして読んだ小説の感想など簡単に書いて、毎回、授業の前に提出してもらっていた。工科大学であるから、専攻はみんな自然科学、数学、技術などだが、教養課程で外国語や文学が必修になっているので、彼らはドイツ語とドイツ文学を選択したわけだ。文学部ではないから作家になりたいなどという学生はいないし、小説など普通はほとんど読まないし、日記も書かない。そのせいか、逆に、この「作文」が楽しくなって、b. 毎回枚数の増えていく学生が何人かいた。授業で扱った本のことだけでなく、その日に恋人と喧嘩^{けんか}した話などまで紛れ込んでくる。自分は普段は文章など書かないけれども書き始めたら楽しかった、という感想を漏らす学生もいた。母語では手紙さえ書かない人間が、語学の授業の課題をきっかけに、外国語で自分の気持ちや夢など、個人的なことを綴るようになっていくのは奇妙と言え、奇妙だ。わたしから見れば、楽しい実験でもある。日本でドイツ語を勉強している人にも、ドイツ語で日記をつけることを勧

めたい。文法、スペル、その他、いろいろ間違いを犯すかもしれないが、そういうことは取りあえずあまり気にしないで、書きたいことをなるべく（③楽しむ）書く。面白いのは、日本語では恥ずかしくて書けなかったかもしれないようなことを平気で書けることもあるということである。そうやって、毎日書いているうちに、綴られた文章の連なりが織物のようなもう一人の自分を生み出していくかもしれない。c. 外国語を学ぶということは、新しい自分を作ること、未知の自分を発見することでもある。わたしたちは日本語を通して世の中の仕組みを学び、人との付き合い方を学び、大人になってきたわけだから、こういうことは考えてはいけなとか口にしてはいけなというタブーが頭の中に日本語といっしょにプログラミング（④する）いる。つまり、日本語でものを書いている限り、d. タブーに触れないようにする機能が自動的に働いてしまう。それが、他の言語を使っていると、タブー排斥機能が働かなくなって、普段は考えてもみなかったはずのことを大胆に表現してしまったり、忘れていた幼年時代の記憶が急にe. 蘇^{よみがえ}ってきたりもする。

チェコ出身のドイツ語作家リブシェ・モニコヴァが生前、デビュー作の中で、主人公が暴力を受ける部分は、とても母語では書けなかった、それをドイツ語で書いたことが自分の文学的出発になったf. と語っていた。

精神分析は母語でなければならない、と言う専門家はもちろんたくさんいるが、[⑤] 外国語でやる精神分析というのものもあるかもしれない。話したくないことも、外国語だと割に簡単に口から出てしまうこともあるのではないか。これまでで一番恥ずかしかったこと、最近泣いた理由、自分の嫌いな人についてなど、ドイツ語で綴ってみてはどうだろう。

（多和田葉子『エクソフォニー―母語の外へ出る旅―』より、一部改変）

注1) 飾り。装飾。

注2) 金糸や銀糸など多くの色の糸を用いて織られた生地や織物のこと。

注3) 言葉の専門家として創造的な言語運用を学生に示す作家や表現者のこと。

問1. （②）（③）（④）の動詞をそれぞれ適当な形に変えなさい。

問2. [①] [⑤] に入れるのに適切なことばを、一つ選んで記号を書きなさい。

- | | | | | |
|---|---------|---------|--------|---------|
| ① | a. そのため | b. あるいは | c. しかし | d. さらに |
| ⑤ | a. かえって | b. あえて | c. もし | d. まったく |

問3. 下線部 a. 「「つづる」という語感の方が、わたしは「つくる」という語感よりも好きである」のはなぜか。筆者がそう思う理由を述べなさい。

問4. 下線部 b. 「毎回枚数の増えていく学生が何人かいた」のはなぜか。その理由を述べなさい。

問5. 下線部 c. 「外国語を学ぶということは、新しい自分を作ること、未知の自分を発見することでもある。」とはどういうことか。文中の言葉を用いて筆者の考えを具体的に説明しなさい。

問6. 下線部 d. 「タブーに触れないようにする」とは具体的にどうすることか。文中の言葉を用いて説明しなさい。

問7. 下線部 e. で使われている「^{よみがえ}蘇る」の意味を書きなさい。

問8. 下線部 f. 「と語っていた。」の「と」が指し示す引用部分の始めと終わりのそれぞれ4文字を書きなさい。

問9. 本文の内容に当てはまるものに○、当てはまらないものに×を書きなさい。

- (1) 「綴る」という言葉には、言葉をつなげて文章を作るという意味だけではなく、書かれた文章の連なりが織物のようにもう一人の自分を生み出していく感じがある。
- (2) マサチューセッツ工科大学でドイツ語を教えた学生たちは、専攻が自然科学、数学、技術などの工学系だったため、作文を書くことにほとんど興味を示さなかった。
- (3) 外国語で日記をつけると、文法などいろいろ間違いを犯すことがあるが、だんだん間違いに気付くようになるので、毎日書くことが大切だ。
- (4) マサチューセッツ工科大学のドイツ語の「作文」の授業では、恋人と喧嘩した話を書く学生がいたりして、とても苦労した。
- (5) 外国語だと話したくないことも簡単に話せることがあるので、外国語で行う精神分析が有効に働くこともあるかもしれない。

設問Ⅲ. 最近あなたの身の回りで起きた出来事を取り上げ、あなたが思ったことを200字程度で書きなさい。ダ・デアル体を用いること。

設問Ⅳ. 次の文の誤りと思う箇所に線を引き、例にならって書き直さない。

(例) 駅からタクシーに乗りて大学まで来ました。

→ 乗って

1. 先生と相談して、論文のテーマを変まりました。
2. 今度の日曜日、天気がいいと散歩に行きましょう。
3. 試験に合格できるために一生懸命勉強しました。
4. 今回の講演会には多くの先生方が参加していただきました。
5. 午後のオンライン会議は何時に始まることを知っていますか。
6. 明日は田中さんと食事をするあと、いっしょに映画を見に行く予定です。
7. 鈴木先生の最終講義は大学の講堂によって行われる。
8. 昨日は山田さんもパーティーに来ると言っていたのに、結局行かなかったね。
9. 年金生活者に対して物価高は深刻な問題である。
10. 先輩の意見において反対するのはなかなか難しい。